

## 夏の花ヒマワリをスタンプで表現しよう！

## 教科・場面

A 班さわるつくる

**授業・実践のねらい** ①ヒマワリの栽培を通して、土・水・葉・花などに触れ、季節や植物の変化を感じる。②ひとりひとりが自分なりの方法で素材や制作に関わり、「つくる経験」をもつ。③共同制作を通して、同じ作品に参加している感覚を味わい、他者とのつながりを感じる。

## 対象の児童・生徒

A1A2 グループの生徒。

## 教材・教具

- ・ヒマワリの種、土、じょうろ
- ・ヒマワリ(葉・茎・花)
- ・画用紙、段ボール、絵の具、刷毛、スポンジ等

**工夫したところ** 猛暑の影響で、屋外の活動が難しい状況だったので、ヒマワリの成長の様子を写真に記録して、画像を通して変化を確認した。

## 授業展開・教材の使い方・実践の内容

**①ヒマワリの成長の観察**：ヒマワリは昨年初夏に植え、成長の様子を継続的に観察した。猛暑の影響により屋外の活動が難しく、またヒマワリが最も美しく咲いていた時期は夏休み期間と重なっていたため、生徒が実際に満開のヒマワリを見る機会はなかった。そこで、毎日ヒマワリの成長の様子を写真に記録し、画像を通して葉や茎の伸び、つぼみの変化、開花までの過程を確認できるようにした。

**②個人製作「ヒマワリ」**：成長の記録をもとに、それぞれが感じたヒマワリの印象を、色や形、素材の感触を通して表現した。段ボール製のスタンプを使用して、押す・触れるといった身体的な関りを大切にしながら制作を行った。

**③共同制作「ヒマワリ」**：個人の制作の経験を踏まえ、共同で二つの「ひまわり」を作り上げた。同じ画面に複数の生徒が関わることで、グループ仲間の制作の様子や痕跡を感じながら参加できた。完成度を目的とするのではなく、それぞれが残した形、制作した跡が重なり合う過程を大切にし、ひとりひとりの関りが集まって一つの作品になることを経験できるようにした。

スタンプを押すという作業は単純ではあるが、生徒にとっては、姿勢の保持や上肢の動き、力の入れ方など、課題を踏まえた道具の選択や支援の工夫が必要であった。

## 授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・個人製作や共同制作を通して、自分なりの方法で素材や道具に関わり、表現活動に参加する様子が見られた。
- ・共同制作では、必要な支援を受けながらも、一人ひとりが作品の一部を担い、同じ作品に関わっていることを感じながら制作に参加する様子が見られた。